ちちぶの医療現場から

城谷　誉子 院長

市民の皆さんにとって、一番関心のある『ちちぶの医療』。
日夜、奮闘されている病院の現状についてシリーズでお伝えします。
第４回目は、【秩父地域の産科医療について】岩田産婦人科医院の
城谷誉子院長です。

◆秩父地域の産科医療の減少

全国的に産科に携わる医師・医療スタッフが不足している状況にあります。秩父地域にも10数年前には複数のお産施設がありました。産婦人科医の高齢化も進み、平成24年には３施設が２施設、そして平成25年より、当院のみとなりました。

◆分娩施設減少に伴う当院並び秩父市の対応

１施設になった当初は、分娩数に対し病床数が12床と少なく、３床増床を行いましたが受け入れ分娩数には限界がありました。また、医師は院長（城谷）、副院長（岩田）の２人で診療をしておりましたが、分娩数30-40件/月が40-50件/月に増え日常の診療、帝王切開、救急搬送、夜間の分娩を行うには体力的にも限界がありました。

そこで、秩父市長、ちちぶ医療協議会、秩父郡市医師会の協力をいただき、埼玉医科大学産婦人科と、埼玉医科大学総合医療センター産婦人科より医師を派遣していただくこととなり、週３日は派遣医師とともに外来診療や分娩を行うようになりました。

医療スタッフも不足していたため、市立病院より助産師２人を派遣していただき、現在では助産師９人、看護師17人で産前産後のサポートを行っています。さらに、今年から助産師を目指している看護師が市立病院より１人当院で研修を行っており、助産師の育成にも努めています。

◆当院の現状

平成28年度の当院での分娩件数は５２４件でした。病床数の増床や医療スタッフの増員等により、最近では、秩父へ里帰り出産を希望されている方をほぼ受け入れられる体制が整ってきました。もちろん母体や児の状態により周産期センターでの分娩が必要な方は、ご理解いただき転院していただいている状況は変わりませんが、派遣で来ていただいている先生方や、大学病院と連携を密に取りながら紹介させていただいています。

今後直ちに、秩父市の周産期事情が改善されることは考えにくいと思われます。しかしながら、今ある施設、人材を最大限に活用させることにより、お母さんにも、赤ちゃんにも安心、安全なお産を心掛けてまいります。

◆当院の紹介

当院の紹介を少しさせていただきます。明治36年に曾祖父（岩田丈五郎）が岩田医院を開業し、引き継ぎ４代目となります。現在は妊婦健診外来、婦人科外来、助産師、看護師による母乳外来、産後の乳児の体重チェック、相談等を行っています。当院で分娩されていない方でお困りの方も、対応しています。

当院の分娩はソフロロジー式分娩を取り入れており、陣痛を“赤ちゃんを生み出すための大切なエネルギー”と考え、赤ちゃんと一緒に乗り切ろうという積極的な考え方が基本にあります。イメージトレーニングによって心身をリラックスさせて「出産の恐怖や痛み」を軽減させる方法です。分娩前の母親学級やマタニティヨガも行っております。また、秩父郡市の保健師等と連携を取りながら、産前産後のサポート等行っており、退院後の育児に不安な方、お困りの方はご相談いただければと思います。さらに、分娩だけでなく子宮がん検診や婦人科疾患等も診療しております。赤ちゃんから高齢の方まで、女性の悩みに寄り添い、安心安全な医療を提供できるようにスタッフ一同頑張りたいと思います。

安心して住める 医療環境を守りましょう！

救急医療や産科医療は昼夜を問わない過酷な医療現場であり、そこに携わる医師・看護師などの医療スタッフが厳しい勤務環境の中で対応しています。

こうした中、医療体制の維持が困難になっている地域もあり、秩父地域も例外ではありません。秩父地域でも、病院や診療所の努力により厳しい状況の中で医療体制が維持されています。

全国的にコンビニ受診や、妊婦健診を受けずに出産するといったことが問題になっていますが、医療体制の維持のためには、住民一人一人が救急医療や産科医療を正しく理解し、適正に利用するという心掛けと協力も必要です。

みんなで心掛けて、秩父地域の医療を守りましょう！

- 「かかりつけ医」「かかりつけ歯科医」を持ちましょう
- なるべく身近な医療機関を通常の診療時間内に受診しましょう
- 妊娠中は妊婦健診を受けましょう
- 感謝の気持ちを持って受診しましょう

秩父地域の救急医療体制

初期救急医療体制と第二次救急医療体制が整備されています。

初期救急医療体制とは…

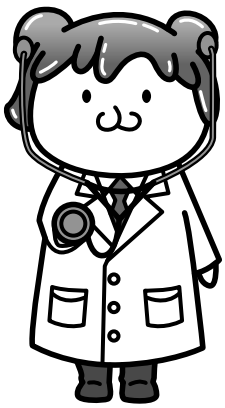
外来で対処できる比較的軽症の救急患者さんに対応するもので、秩父郡市医師会が運営する休日診療所と在宅当番医制や平日夜間小児初期救急があります。

第二次救急医療体制とは…

夜間や休日に急病やケガで入院治療が必要になる場合に対応するもので、現在、秩父地域内の3病院が輪番制で受け持っています。

※詳しくは市報「休日急患当番医」の記事や、市HP、秩父郡市医師会HPに掲載されています。

問 地域医療対策課☎22－2279



「和を以って貴しと為す」

移住相談センターの活動

市長 久喜 邦康

人口減少の改善を図るため、今年の4月から、移住相談センターを地場産センター4階に開設し、移住希望者の「秩父市に住みたい」というご希望を伺い、そのお手伝いをさせていただいています。具体的には、移住相談や移住体験ツアーにより、移住者や交流人口の増加を目指しています。

この事業の一つとして実際の秩父暮らしを体験できる「お試し居住住宅」を7月から整備し、「秩父市の生活を体験してみたい」、「移住に必要な住居や仕事などの情報収集をしたい」という多くの方に、すでにご利用いただいています。利用者からはとても好評で、また大変ユニークな事業でもありますので、メディアにも多く取り上げられています。

また移住に欠かせない課題として、定住のための住居の提供があります。かねてより、ちちぶ定住自立圏にて展開している「ちちぶ空き家バンク」では、「田舎暮らしをしたい」移住希望者と「空き家・空き地を活用したい」オーナーとのマッチングを図っています。空き家・空き地を所有されている方は、それらを「有効活用できる資産」であるとお考えいただき、空き家バンクへのご登録をお願いいたします。

今後、移住相談センターでは婚活イベントなどの企画を行い、都市住民との交流により、「日本一しあわせなまち秩父」を創り上げたいと思います。引き続き、移住推進事業に注力してまいります。

お気軽にお越しください！ ふらっと市長室

●11月15日(水)
9:00～10:00　大滝総合支所
11:00～11:30　本庁舎1階

●12月15日(金)
9:00～10:00　荒川総合支所
11:00～11:30　本庁舎1階

※日程は変更となる場合があります。

問秘書広報課
☎22－2505